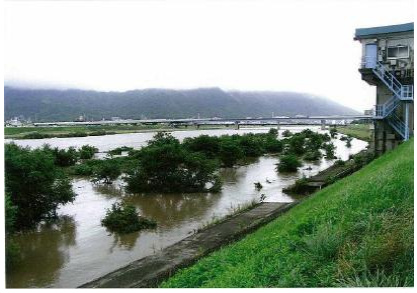
大芝出張所管内	福間　さん
観察月日	連　　絡　　事　　項　　等
7月　12日	大雨、洪水警報下の未明、バケツをひっくり返したような猛烈な雨に見舞われた。河川への増水状況が知りたくて私の受け持ちである大芝水門ー高瀬堰間約8キロ区間を午前9時過ぎから約1時間半かけて見回った。 ◎高瀬堰（高瀬分室で取材） 高瀬堰（太田川、根谷川、三篠川から集まる全体の流域平均雨量）の雨量計が65ミリを記録。午前8時のピーク時は毎秒1,500立方㍍放水。6基の水門全てが2㍍開かれ、約300㍍の川幅はたちまち濁流の渦となり、静かな川面は一転して荒れ狂う川に豹変してしまった。 普段の高瀬堰周辺は、河原の石や砂が顔をのぞかせ、堤そばの木々が森を形成して落ち着いた風景を見せているが、今は濁流の中。木の枝々も下流に引っ張られ、流れの勢いに身を任せた状態だ。 ◎10㌔ポイント ここの河川敷は私が散歩をする際の起点にしている場所だが、河川敷への増水までにはまだ1㍍ほど余裕があった。 ただ、水をたっぷり含んだ雑草の緑が映え実に美しい。この周辺の河川敷がかなり高い位置にあることも知った。 ◎7．4㌔ポイント 太田川ゴルフ場が広範に渡って浸水。ティーグランドやグリーンが浮島となって奇異な光景を晒していた。ゴルフ場の話しでは「ホールを短縮して営業した」というから、商魂は逞しい。 ◎大芝出張所前 大芝水門（三基）と放水路の祇園水門（三基）の合流点。既に大芝水門は開放され、水量調節のため祇園水門も二基が開放された。最大川幅を誇る場所だけに、高瀬堰附近の勢いを増した濁流の様子とは打って変わって「まだ余裕があるよ」とでもいいたそうな穏やかな表情に、私には見えた。 【7月12日撮影分】 ①12日未明の集中豪雨で毎秒1,500立方㍍放水した高瀬堰  ②矢口水門前の木々も濁流に呑み込まれた
	 ③冠水被害にあったゴルフ場のフェアウェー

7月　14日	12日の猛烈な降雨取材を終え、「これ以上の雨に遭遇する機会はそうないだろう」と思い込んでいた。ところが、それは見事に裏切られた。13日から14日にかけて降った雨は12日をも上回るゲリラ豪雨となった。 ◎高瀬堰 取材したところ、流域（太田川、根谷川、三篠川）平均雨量は118．3ミリを記録。6基の水門は開放され、午前11時のピーク時は毎秒4,200トンの放流となった。 矢口水位観測所の水位計は氾濫注意水位（5．5㍍）と避難判断水位（7㍍）の間、6．5㍍を記録したという。 ◎10㌔ポイント 午前10時に堤防に立った。河川敷に降りる石段は既に10段ほどが水に浸かり、しっかりくくりつけられた川舟4艘が濁流に揺れ動いていた。川の中ほどでは別の川舟1艘が濁流に呑まれ、見る見る姿を消した。流れの速さをしらされた。川舟は普段、河川敷に係留されているもので、増水によるこうした光景を見る機会はなかなかないこと。 ◎口田集会所（口田南3丁目） 矢口川水門を中心とする地域一帯が増水による床上、床下浸水の被害を受けた。JR矢口駅前の道路が大人の腰ほど冠水し、地域によっては大人の背丈ほどの浸水被害を受けた。もちろん駅前の幹線道路は交通不能に陥った。下矢口町内会の調べでは、床上・床下浸水戸数は25戸に達した。 午前10時過ぎ、口田集会所を避難場所にして被害者の受け入れを開始した。口田学区町内会連合会役員の私は呼び出しを受け、避難者の受け入れを手伝うことになった。 受け入れた避難者の延べ人数は、25人。毛布30組や昼食弁当の手配、夕食60人分の炊き出し準備などに追われた。 最終的に寝泊り者がいなくなったので、午後8時5分避難所を解散した。町内連合会にとってはこうした避難者受け入れ、炊き出しなど初めて尽くしの取り組みとなったこともあり、貴重な体験は大いに勉強になった。 ◎矢口川水門 矢口川、絵坂川など支流の水をこの水門へ導き、本川の太田川に流している。しかし、太田川水位の上昇とともに水門が閉められてしまうと、支流の水は水門に設置しているポンプで汲み上げて、太田川に放流されることとなる。 太田川の水門は13日に閉じられた。当然、ポンプが稼働し汲み上げをしていたはずである。しかし、支流の水が行き場を失って浸水騒ぎとなってしまった。 ポンプの揚水能力が不足していなかったのか。ポンプの操作に問題があったのか。支流の水量が想定を越えた量だったのか。今後の検証に委ねられたが、浸水被害をだしてしまった今、再発防止に向けて全力で取り組む必要がありそうだ。

◎大雨取材を終えて

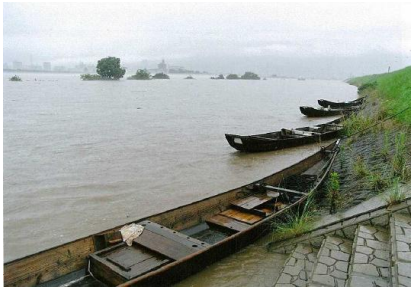
　12日から14日にかけて降った大雨で、モニターとして現場取材できた貴重な体験に、胸の高鳴りさえ覚えた。穏やかな川が突如、荒れ狂う川に豹変する。普段の備えの大切さが少しだけ理解できた思いだ。

　12日、それに13－14日の降雨。約3倍の雨量の差がどんな川に変身させるのか。この目で確かめることができた。

　平成17年の豪雨では高瀬堰のピーク時の放流量が7,000立方㍍だったというから、水を呑み込む“大河”の底知れぬ深さを実感することが出来た。15日午前10時過ぎ、10㌔ポイントに立って見ると、既に河川敷が姿を現し普段に近い川に戻っていた。「なにもなかった」とでも言いたそうな“泰然自若”の表情である。

　しかし、浸水被害が出たのも事実である。安佐北、安佐南両区の各支流河川で起きた。太田川の水門の閉鎖は安全策の一環なのだろうが、支流の被害が顕著に出た今回は、また新たな課題を突き付けられたのではないだろうか。

【7月14日撮影分】



①堤防まで押し寄せた濁流に揺れる川舟

②冠水した矢口水門近くの下矢口地区で、ゴムボートに乗って住民の救出に向かう消防署

7月　18日

　口田学区公衆衛生推進協議会が音頭を取って午前8時から太田川河川敷一帯で「太田川クリーン作戦」を展開した。

　24年前から行っている伝統行事で、学区15町内会、口田中学校の生徒さんら総勢150人が参加して小田ポンプ場から矢口川水門間約1.2㌔区間の河川敷や堤防などに散乱したごみを拾い集めた。

　私も6年続けての参加となった。12日から14日にかけて降った大雨の影響で、河川敷の雑草には花をつけたようなビニールなどのごみがからみついていた。全員がごみ袋を手に黙々とごみを拾い集めた。例年は空き缶やビン類が見つかるのだが、洗い流されたのか皆無の状態。それでも、約40分の間にごみを40袋分、それに流木多数を集めた。

【7月18日撮影分】

①太田川クリーン作戦で、河川敷のごみ拾いに集まった口田学区の人たち

管理第一課からの意見・感想等	
	初めてのレポート有り難うございます。このたび、内水浸水で被災された皆様にはお見舞い申し上げます。 7月12日からの豪雨において、河川の出水状況の写真や高瀬分室の取材などの報告をいただき有り難うございます。出水時の水辺は、危険を伴いますので水際に近づかれた方がおられましたら、お声をかけて下さいますようお願いします。 矢口川水門における内水被害の対策につきましては、8月に国、県、市で構成する内水対策検討会を設置し、内水氾濫に対する今後の対応方策について検討しているところです。 18日のクリーン太田川の河川一斉清掃では、地域の方には多くの人が参加いただき有り難うございます。また、7月14日の出水で通年より多くのゴミが流出しており大変な作業であったと感謝いたします。 これから1年間モニターを宜しくお願いします。 【追伸】 12日と14日に高瀬分室で取材をされた時のデータについて出典根拠を管理第二課（高瀬分室）に確認いたしましたので補足説明いたします。 1）12日について ・雨量計が65ミリ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12日0時から9時までの累加雨量です。 ・毎秒1,500立方㍍放水・・・・・・・・・・・・　矢口第一観測所の流量です。（安佐大橋左岸の下流400m付近の観測所） ・6基の水門全てが2㍍開かれ・・・・・・・・6基の水門は全て1．5m開いていましたが2mと説明しています。 2）14日について ・平均雨量は118．3ミリを記録・・・・・・・・高瀬堰の雨量観測所の13日4時から9時までの累加雨量です。 ・毎秒4,200トンの放流・・・・・・・・・・・・・・・・高瀬堰の放流量4,164m3/s→4,200m3/sとして説明しています。